

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮東小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策		
	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> ・基礎学力の定着 ・国語「漢字」、算数「数と計算」、「測定」 <指導上の課題> 個人差が大きく、基礎学力の定着を図る個別最適な学びや体験を通じた定着を図る必要がある。	⇒	・授業の最初に前時の学習を振り返り、その内容を生かして本時の課題を設定する【毎時間】 ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、ドリルパークやオクリンクプラスなどを活用した学びを行う【週1回】
思考・判断・表現	<学習上の課題> ・記述による表現 ・国語「書くこと」、算数「数と計算」、「図形」 <指導上の課題> ・思考力、判断力、表現力を意識した指導。学習時における記述、表現を取り入れた指導。	⇒	・ICTを効果的に活用し、児童の「わかった・できた・楽しい」を引き出す。また、魅力ある導入や必要感のある課題設定、解決の見通しをもって自力解決する場面の設定を行う【毎時間】 ・パフォーマンス課題等を意識した記述、表現を意識した指導【月1回】

<小6・中3> (4月～5月)

⑤	評価(※)	調査結果について(分析・考察)
知識・技能		
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能			
思考・判断・表現			

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮東小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	引き続き、基礎基本の定着を図るため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、日常化された取り組みや学習系アプリを活用することが必要である。特にまとめや振り返りを意識した授業を展開することで、より理解を深め、学習内容の定着を図っていく。
思考・判断・表現	自らの学びを振り返る時間を設けることや、考えを記述(タブレットにおいては入力)する活動を充実させることで、思考の過程や自身の考えを表現する力を育む。また、より活発に協働的な学びを取り入れることで、自身の学びを多面的・多角的に捉え、深めることができる。また、提案やプレゼンテーションなどのパフォーマンス課題も積極的に取り入れ、表現する力を高めていく。

①	今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 単元や内容ごとに知識の定着に差がある。 <指導上の課題> 基礎的、基本的事項の確実な定着、習熟を図る場面、時間設定が不十分なところがある。	⇒	授業の中で基礎基本を定着する指導を繰り返し行っていく。児童一人ひとりが単元ごとの達成状況を踏まえ、「ドリルパーク」、「スタディサプリ」などタブレットを活用しながら、定着を図っていく個別最適な学習を推進する。まとめや振り返りを大切に行い、国語の言語活動や算数での算数的な活動、社会での調べ活動、理科の実験など、体験的な学習を重視しながら、学習内容の定着を図っていく。
思考・判断・表現	<学習上の課題> どの学年においても記述型問題の無回答率が他と比べると高く、苦手意識がある。 <指導上の課題> 話す、聞く態度の徹底を図りながら、自己表現する素地を確立していく指導が不十分なところがある。	⇒	学習内容に応じて、思考・判断・表現を伴う学習活動を授業に取り入れ、学習課題に対して自分で考え、まとめ、発表する場や時間を十分に確保するとともに、根拠を明確にした思考の過程を重視する指導を実践する。教科関係なく授業の中で、お互いの考えを深めたり、広げたりできるように、伝え合う活動を工夫して行う。また、確実な授業規律の定着も必要である。

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	基礎学力の定着を目標に、タブレットの活用の推進、学習系アプリの活用、学習ごとの振り返りなど、言語活動を重視しながら基礎学力の定着を図る指導が多く見られるようになった。タブレットの活用が進む中で、個別最適な学びや協働的な学びが進んでいく一方で、基礎学力の定着という点で、全国学力・学習状況調査、さいたま市学習状況調査に課題が見られる。
思考・判断・表現	B	まとめや振り返りの場面で、よく考え、まとめ、発表する活動を行うことで、思考力、判断力、表現力の向上を図ってきた。根拠や過程を意識した思考場面や話し合い活動など協働的な学びを確保することで思考の深化を図った。さいたま市学習状況調査の結果から、全校で「書くこと」に課題が見られたことから、今後、より意識的に言語活動を取り入れていくことが必要である。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の主語・述語の関係を捉える問題に課題がみられた。解答類型を見てみると、文章の最初にある単語を主語と捉えている児童や修飾と被修飾語の関係を捉えることができていない児童が多くみられた。算数の直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係を捉える問題に課題が見られ、円柱の展開図から、それぞれの関係について正しく理解できていない児童が多く見られた。また、無回答者も全国と比較し多く見られた。また、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかについて全国同様に正答率が低く、無回答率も多かった。学習場面において、主体的に学び、課題に対して粘り強く取り組むことで、無回答率を下げる可以考虑。
思考・判断・表現	国語の目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書く問題に課題が見られた。また、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる問題にも課題が見られた。ともに記述式の問題であり、課題に対して自身の考えを表現することを苦手とする児童が多く見られた。算数の道のりが等しい場合の速さについての問題に課題が見られた。この問題も記述式であり、問題を読み取り、自分の考えを表現する問題において、難する児童が多く見られた。国語では、ほとんどの問題における無回答率が高く、全国は無回答率を上回っていた。

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、主語と述語を正しく選ぶなどの問題に課題が見られる一方、得点率は4学年とも一定の正答率が取れている。また、算数では、学年、領域ごとにばらつきがあり、課題が見られる部分と得意とする部分がある。また、理科と社会では、特に理科において、領域別の理解について、特に「生命」領域に課題が見られた。
思考・判断・表現	国語では、全体として「書く」の領域に課題が見られた。問題数が少ないため、課題となる内容は各学年において異なるが、学年・学校全体の課題である。算数では、数と計算における学習に課題が見られた。立式のための文章理解や数的概念、低学年からの系統的理解の蓄積が必要である。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	個別最適な学びを推進する過程で、児童にルーブリックを示す指導法を取り入れるなど、児童の主体的な学びをどのように形成するかについて議論が進んでいる。タブレットの活用が進む中で、学習アプリの活用も多く見られるようになった。	大きな変更はなし。授業の中で基礎基本を定着する指導を繰り返し行っていく。タブレットを活用しながら、学習アプリを活用しながら、定着を図っていく個別最適な学習を推進する。また、まとめや振り返りを大切に行い、国語の言語活動や算数での算数的な活動など学習内容の定着を図っていく。
思考・判断・表現	B	学習内容に応じて、思考・判断・表現を伴う学習活動を授業に取り入れ、学習課題に対して自分で考え、まとめ、発表する場や時間を十分に確保するとともに、根拠を明確にした思考の過程を重視する指導がみられる。また、協働的な活動をクラウドを通して行わない、他者参照等の取組が進んでいる。	引き続き、思考・判断・表現を伴う学習活動、学習課題に対して自分で考え、まとめ、発表する場や時間を十分に確保する。ただし、根拠を明確にした思考の過程を重視する指導や自身の考えを言葉で表現する活動に重点を置く。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)